



今日の建設活動に疑問と不安を抱き 明日の建設活動のあり方を思案している皆様へ 新たな地平を切り拓く一言を お贈りします。

日本政府もようやく以下の方針をまとめ、世界に向けて宣言しました。

「経済産業省／温室効果ガス排出量を2030年度までに2013年度比26%削減することを目指す。

世界のカーボンニュートラルだけでなく、過去に排出されたCO2の削減、すなわち「ビヨンド・ゼロ」を可能とする革新的技術を2050年までに確立することを目指し、世界全体でのCO2削減に貢献する。

2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、「脱炭素社会」の実現を目指す。

この挑戦は日本の成長戦略そのもの。あらゆるリソースを最大限投入し、経済界とともに、「経済と環境の好循環」を生み出す。」

しかし、これまでの住宅建設のあり方で、このようなことが実現できるでしょうか。10年から30年先の短期的なプロジェクトではその先行きが危ぶまれます。

余計なことを考えず、建築の平均寿命を30年から100年、あるいは300年にしたらどうでしょうか。

そうすれば、政府の目標は簡単にクリアできるのではないのでしょうか。

すなわち、こう気密高断熱の「省エネ」だけではなく、持続可能な社会経済にのっとった住宅建設を実現しなければ本来の目標とはなりません。まさに SDGsに掲げられる17の目標を実現しなければ 政府の描く目標は看板倒れとなってしまいます。

現在の住宅建設における解決すべき課題と対策を挙げてみます。

□ 建築の寿命が短く、約10~20年で屋根外壁の大規模改修を必要としている

→ 25年に1回の中規模改修、50年に1回の大規模改修へ改変する

□ 視覚的な耐久性、SDGsに込えられない建材群＝ビニルクロス、プリント合板の枠・フラッシュ建具、突板の合板フローリング、樹脂シート床材、塩ビ樹脂による膨大な各種建材

→ インテリアでは無垢板材による床壁天井・家具建具、土壁・漆喰による壁天井、外壁では土壁・漆喰壁・モルタル＋無機系浸透塗装・煉瓦・タイルなどの恒久材・再利用可能な建材を使用する

□ 空気で冷暖房することと、24時間換気することとは、根本的に矛盾し省エネと逆行している

→ ホルムアルデヒドが検出されるF☆☆☆☆を超えた建材を使用し、必要換気量を最小限とし、空気を使わない輻射冷暖房を使用して省エネを計る、また外気取り入れに太陽熱・地熱を活用してさらに省エネ化を図る

□ 大量の輸送・保管コスト＋大量の梱包材・端材＋安易な既存家屋・建材の解体・廃棄があり、その結果は、業種別排出量で20%（令和元年、電気・ガス・熱供給・水道業25.9%、農業・林業21.5%）が建設業となっている

→ 建物の寿命、各種建材の寿命を、25年に1回の中規模改修、50年に1回の大規模改修に耐えるものを選択する。また、国産材を基本として使用し、輸送・保管コストを最小限にする。さらに端材が出ない工法を確立する。

これらの目標を実現するために、現状の住宅建設を見直し、さらに住まい手の健康を守るために構築した技術体系が、一般社団法人エコハウス研究会の「soradomaの家」です。これは、常に進化する家づくりです。何故かと言えば、常に課題を明らかにし、継続的に改良しているからです。世の中にあるシステム住宅のほとんどは、改良するためには大変な労力とコストがかかり、間違いに気づいても改良できないのが現状です。とくに大手住宅メーカーの仕様はその典型です。

エコハウス研究会は、「議論・検証・提案と実践の交流が原点」となっています。皆様建築人の参加をお待ちしています。

→ 専門家用homepage <http://ecohouse.ac/> ユーザー向け、初心者用homepage <https://navi.ecohouse.ac/>

